

「主体的に学び、豊かに表現する子どもの育成と基礎学力の定着を目指して」

～「きづき・かんがえ・つたえあう」を生み出す授業づくり～

テーマの設定理由

一昨年度まで「確かな学力」の定着を念頭に、「豊かな心の育成とコミュニケーション能力の向上」を研究テーマとし、本校ならではの教育研究を行ってきた。オーストラリアの地を生かした教育活動をはじめとして、国語の表現力に重点を置き、異学年を合同にして授業を行ったり、基礎学力を高めるための独自の取組を実施するなど、精力的に教材研究や指導の工夫を展開してきた。これらの実践を通して、子どもたちは当地での生活への興味・関心を高め、より理解を深めることができた。また、子どもたちの基礎学力も個に応じた指導のもとレベルアップがなされている。

一方で、日本の教育事情を考慮に入れると、新指導要領とともに教科書が一新され、確実に基礎学力の充実と向上とともにコミュニケーション能力の向上が新たな改訂に含まれ、全ての教育活動を通して、表現力の育成が求められている。また、子どもたちのこころの教育にも重点を置かれている。さらに5,6年生で英語が教科となり、担任が教えることとなる。そのため小学校教員は英語指導の技能も必要となってくる。

研究テーマを設定するに当たり、これまでの取組を更にレベルアップし、社会に求められる能力を高めるために今年度本校で重要視すべき点は、「主体的に学ぶ力と豊かに表現する力」の育成だと考えた。本校の特性として、少人数制を生かした個別指導、小中一貫教育、英語活動の充実が挙げられる。また、日本の教育課程の保証と現地理解教育を融合させた独自のカリキュラムを展開してきた。上記の2つの力を高める授業展開を創意工夫し、実践することで、国際社会で求められる力が更に身につくと考えられる。

「主体的に学ぶ」力を培うためには、課題にいきつくまでの「気づき」が大切でありそのためには、授業の中で筋道を立てて考えるための指導法の工夫・改善が必要である。それに伴い「豊かに表現」する力を養うためには学び合いによる学習活動を充実させることが重要である。

以上のことから、今年度の研究テーマを「主体的に学び、豊かに表現する子どもの育成と基礎学力の定着を目指して」と設定した。

そこで、在外教育施設ならではの教育実践を継続、工夫しながら、児童・生徒が「きづき」「かんがえ」「つたえあう」を生み出す授業づくりを目指し、以下の3点を共通理解し、実践していく。

- ①各教科・道徳・学活・総合的な学習での教材開発やテーマに基づいた指導の実践。
- ②英語圏の本校の特性を生かした英語活動の充実とESLとのタイアップ。
- ③学年や学部に応じた学習規律の定着を図り、一人ひとりの学び環境を充実させる。

また、この実践は、今後の教師としての資質向上に大変役に立つものと考えている。

今年度の研究テーマを実践し、本校の教育目標である「自学自治」の具現をめざした校内研究を行っていきたい。